



愛知県の大規模展示場計画

なぜ、愛知で大規模展示場なのか？

日本が、激しい国際競争の中で、さらに発展していくためには、
圧倒的な愛知の産業力が不可欠！



愛知のポテンシャル

5千万大交流圏の
西の拠点

モノづくりを中心に
わが国の成長を牽引

人口増、都市機能の
集積など

- リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する「中京大都市圏」
- 日本の成長をリードする、産業の革新・創造拠点

～「あいちビジョン2020 めざすべき愛知の姿」より抜粋～

大規模展示場の整備は喫緊の課題

産業インフラの充実が必須

国内の展示会産業は
ハード・ソフトの両面で東京一極集中



一方、愛知で開催される
モノづくりに関する展示会では
出展募集後に即日完売

日本全体の展示会需要の受皿

2020年
東京オリンピック・パラリンピックの前後に
首都圏の主要な展示場が一定期間閉鎖



日本全体の展示場不足に
愛知が的確に対応

日本の発展を支えるこの愛知に
新たな大規模展示場を2019年秋頃を開業

- ✓ MICEによる新たなビジネスマッチングの機会を創出
- ✓ 企業や研究機関の誘致や、新たな交流によるイノベーション
- ✓ 国内外から人を呼び込む集客交流拠点

新たな大規模展示場の概要

建設予定地

空港島(常滑市)

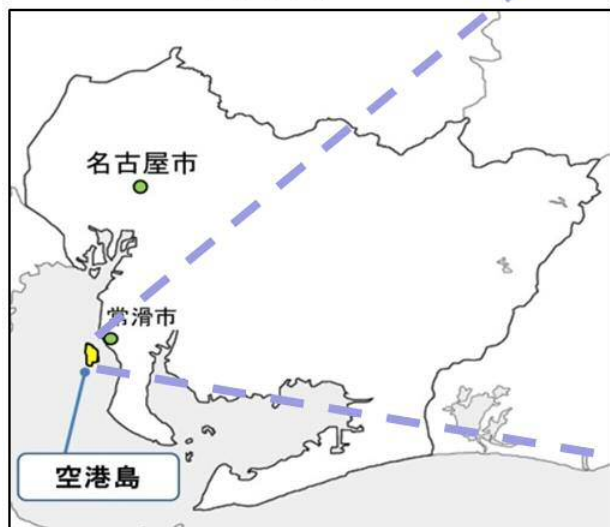
敷地面積

28.7ha(県企業庁所有)

※展示場面積の拡張が可能となる十分な敷地

開業予定

2019年秋頃



施設規模

展示面積6万m²(国内の展示会の9割をカバー)

整備費等

建設費 約350億円

※6月定例県議会(6/16開会)に整備費の補正予算を提案

※徹底的に整備コストを削減



※展示場整備に向けて建設予定地の港湾計画を5月31日に変更

空港島内配置図





新たな大規模展示場の特色

① 抜群のアクセス利便性

- ✓ 名古屋駅から乗換なしのダイレクトアクセスで28分
- ✓ 中部国際空港駅から連絡通路で直結(徒歩5分)
- ✓ セントレア東ICから約1分、約3,400台収容可能な駐車場が隣接
※多目的利用地(4.4ha)を臨時駐車場に活用すれば計4,800台以上

② 日本初の国際空港隣接型展示場

- ✓ アジアを中心に海外、国内主要都市からのアクセスは抜群
- ✓ 海外からの出展者、来場者を呼び込む仕掛けを検討

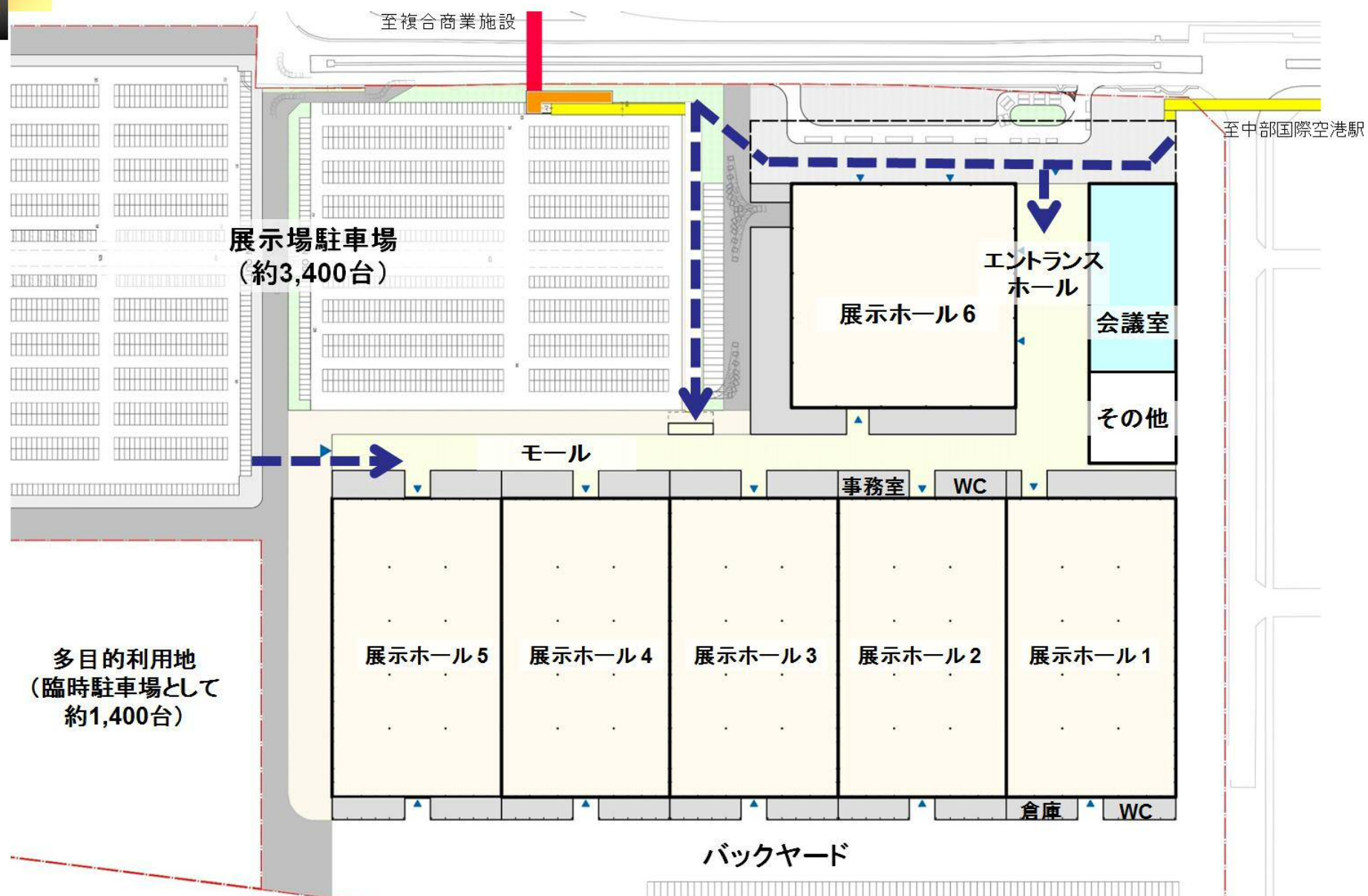
③ 利便性の高い展示施設

- ✓ 様々なニーズに対応可能な6万m²を一体利用できる展示スペース
- ✓ セントレアの商業施設・ホール・会議室、空港島の宿泊施設と近接
商業施設、宿泊施設は今後増える計画あり

施設仕様について

平面配置図

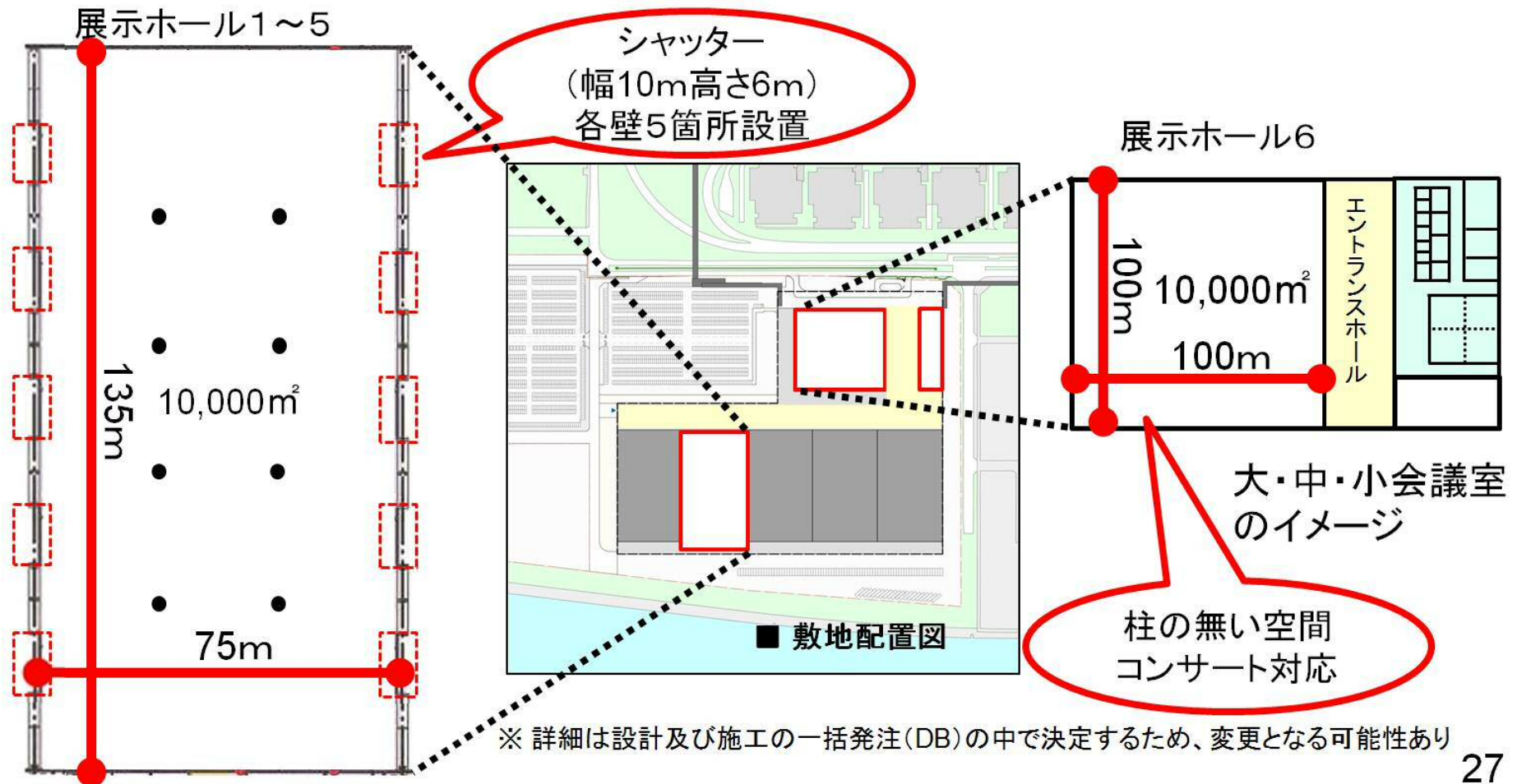
歩行者動線



※ 詳細は設計及び施工の一括発注(DB)の中で決定するため、変更となる可能性あり

展示ホール・諸室

- 展示ホール1～5はシャッター開口を5箇所設置、一体的に利用が可能
- 展示ホール6は柱の無い空間とし、コンサート等の利用が可能
- 会議室はエントランスホールに隣接して設置予定
- 展示ホール1～5は展示会に支障のない程度の柱を設置



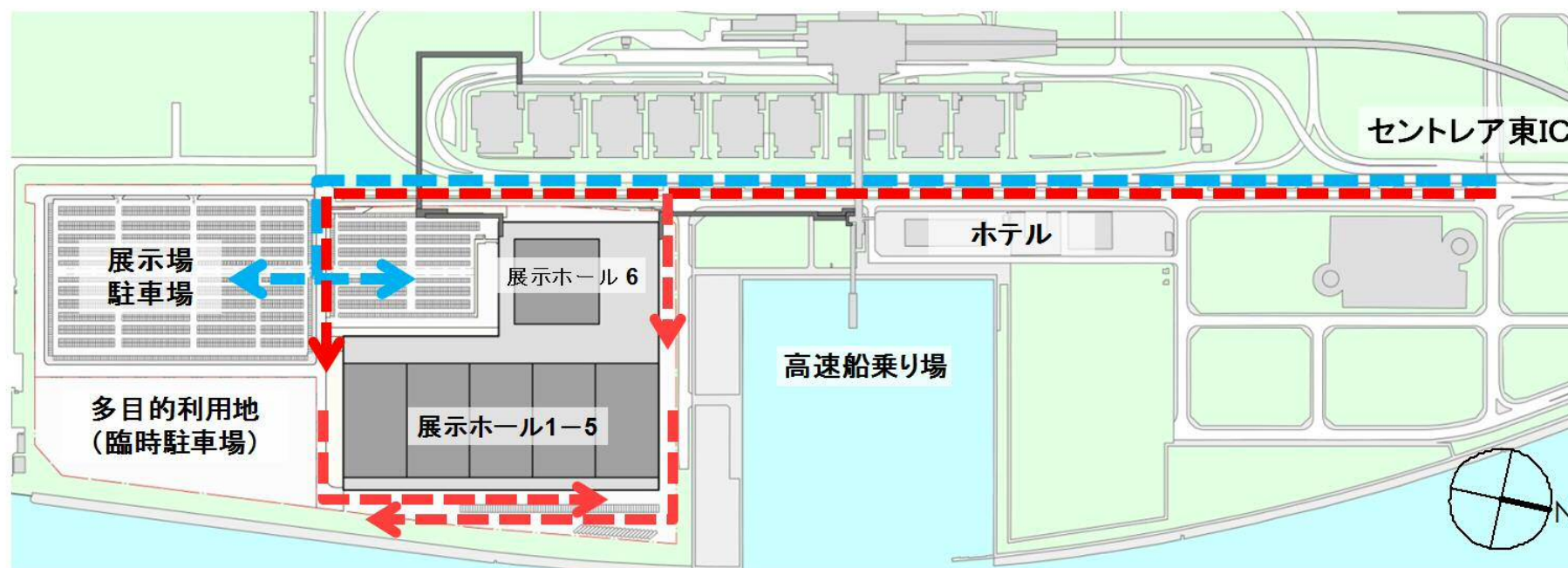
施設の仕様

室構成	室名	展示ホール1～5	展示ホール6 (コンサート対応)	エントランスホール、 モール	会議室、多目的室、 控え室、その他
	面積	10,000㎡×5室	10,000㎡	10,000㎡	16,000㎡
構造	鉄骨造				
		柱間隔25.0m 有効高14.0m	柱の無い空間 有効高14.0m	天井高さ5m	天井高さ3m
外部仕上	屋根	亜鉛鋼板(デッキプレート)+断熱材+防水シート			
	外壁	ALC(軽量気泡コンクリート)			
内部仕上	天井	亜鉛鋼板 (デッキプレート)		化粧ボード	
	床	コンクリート床(耐荷重5t/㎡)		タイルカーペット、ビニル床シート タイル、花崗岩等	
	その他	塗装仕上げ コンサート対応のため防音材設置			
設備	空気調和設備、給排水設備、消火設備、照明設備等設置				
	展示用配線・配管ピット設置				

車両動線・バックヤード

- 自動車ではセントレア東ICを下車し、直進1分で駐車場入口へ
- バックヤードは10tトラックがすれ違うことができるスペースを確保
- 多目的利用地(4.4ha)は、屋外イベント会場や臨時駐車場としても利用可

<車両動線のイメージ図>



← 一般車動線
← 管理動線

整備費の内訳(6月補正予算)

予算額 52百万円(基本設計費、 外に債務負担行為34,891百万円)

項目	百万円	備考
本体建設工事 本体工事費計	30,512	
(内訳) 杭工事	1,997	
躯体工事	8,821	展示ホール1～5は柱を設置しコスト縮減
外部仕上工事	3,157	倉庫並みの仕上としコスト縮減
内部仕上工事	3,056	・展示ホール1～5は可動壁ではなくシャッター設置 ・倉庫・事務室レベルの仕上としコスト縮減
空気調和工事	7,189	全展示ホール空調設置
その他設備工事	5,699	電気設備、防災設備等
その他雑工事	593	サイン工事等
外構工事	3,884	駐車場含む
小計	34,396	
委託料	547	設計等 (うち平成28年度 基本設計費 52百万円)
合計	34,943	

アクセス・関連諸機能

アクセスについて

- 国内の主要展示場と比較して鉄道・自動車とも同程度の所要時間
- 国際空港からのアクセスは圧倒的に優位

<主要展示場との比較>

		愛知県の展示場 (名古屋駅より)	東京ビッグサイト (東京駅より)	幕張メッセ (東京駅より)	インテックス大阪 (新大阪駅より)
鉄道 ※	所要時間	約35分 (名鉄: 駅直結)	約35分 (JR+ゆりかもめ)	約40分 (京葉線快速)	約45分 (JR+地下鉄)
	料金	1,230円 ※	520円	550円	420円
自動車	所要時間	約30分	約20分	約40分	約45分
	料金(高速)	1,670円	930円	1,180円	930円
空港	所要時間	徒歩圏内	約25分 (羽田空港より)	約40分 (成田空港より)	約50分 (関西国際空港より)
	料金(バス)		620円	900円	1,550円

※鉄道による所要時間には徒歩時間を含む

※愛知県の展示場への鉄道料金は特急(一部特別車)利用の場合は870円(所要時間:約40分)

<就航路線及び便数>

国際線	40都市	353便/週
国内線	18都市	81便/日

※国内線には羽田(3便/日)、成田(4便/日)を含む

<バス(セントレアリムジン:名古屋駅周辺ホテルを経由)>

所要時間	約50分
運賃(片道)	1,200円
本数	8本/日

※他に午前2時発・5時発の名古屋駅へのノンストップ深夜バスあり

ホテルについて

- 展示場周辺(空港島内:徒歩圏内)に2019年頃までに計3,035室
- 近隣の常滑市内(鉄道で2駅)には計588室
- 世界基準の主要ホテルは名古屋駅周辺を中心に数多く立地

<空港島内のホテル>

ホテル名	客室数	備考
セントレアホテル	221室	—
コンフォートホテル	346室	—
東横イン	1,001室	—
レッドプラネット※	約180室	2017年開業
東横イン(新棟)※	1,287室	2018年頃開業
計	約3,035室	—

※ いずれも現時点の予定



<近隣のホテル(常滑市内)>

ホテル名	客室数	所在地
Jホテルりんくう	180室	りんくう常滑駅
ルートイン常滑駅前	144室	常滑駅
スプリング・サニーホテル	193室	常滑駅
ホテルミラーゴ中部国際空港	71室	常滑駅

※ りんくう常滑駅: 中部国際空港駅から1駅
常滑駅: 中部国際空港駅から2駅(特急停車駅)

<名古屋市内の主要ホテル>

ホテル名	客室数	備考
名古屋マリオットアソシアホテル	774室	—
ヒルトン名古屋	450室	—
ウェスティンナゴヤキャッスル	195室	—
名古屋観光ホテル	369室	—
名古屋東急ホテル	562室	—
ANAクラウンプラザグランコート	246室	—
三井ガーデンホテル	約300室	2016年開業
JRゲートタワーホテル	350室	2017年開業
プリンスホテル	約170室	2017年開業

商業施設について

- 徒歩圏内に、空港内の飲食店舗(空港ターミナル内の約50店舗)やコンビニ(2店舗)、お土産店などが立地し利用可能
- 2017年度下期には、展示場予定地に近接して新たな複合商業施設(ボーイング787飛行試験1号機展示、飲食、物販)が整備される予定
- 対岸部(鉄道で1駅)には東海地区最大級の「イオンモール常滑」が2015年12月に開業し、空港発の無料シャトルバスが利用可(20分間隔で運行)

< 空港島 >



< 対岸部 >



< 中部国際空港ーイオンモール常滑 無料シャトルバス >

区間	中部国際空港ーイオンモール常滑
運賃	無料
本数	土日祝:20分間隔 平日:40分間隔

その他関連機能について

- 空港内にあるセントレアホールや会議室、隣接するセントレアホテルの多目的ホールの活用が可能
- その他、商業施設、飲食・コンビニ、郵便局、ATM、両替施設

<国際会議・レセプション>

○セントレアホール

アクセス	中部国際空港3F出発ロビーから直結
面積	340㎡(20m×17m)
収容人数	会議形式で最大330名、立食で最大250名収容
用途	座席が可動式のため、シンポジウム・セミナー・講演会としての利用可能 ステージ、スクリーン、同時通訳4ブースあり

※その他、中小会議室(8席～63席)が計7室あり(一部は一体利用可)



セントレアホール
(中部国際空港株式会社提供)

<レセプション>

○セントレアホテル(多目的ホール)

アクセス	空港アクセスプラザから直結
収容人数	立食・着席とも最大60名収容

○アリス ダイニング(フランス料理・日本料理レストラン)

アクセス	空港ターミナル3F
収容人数	最大100名収容

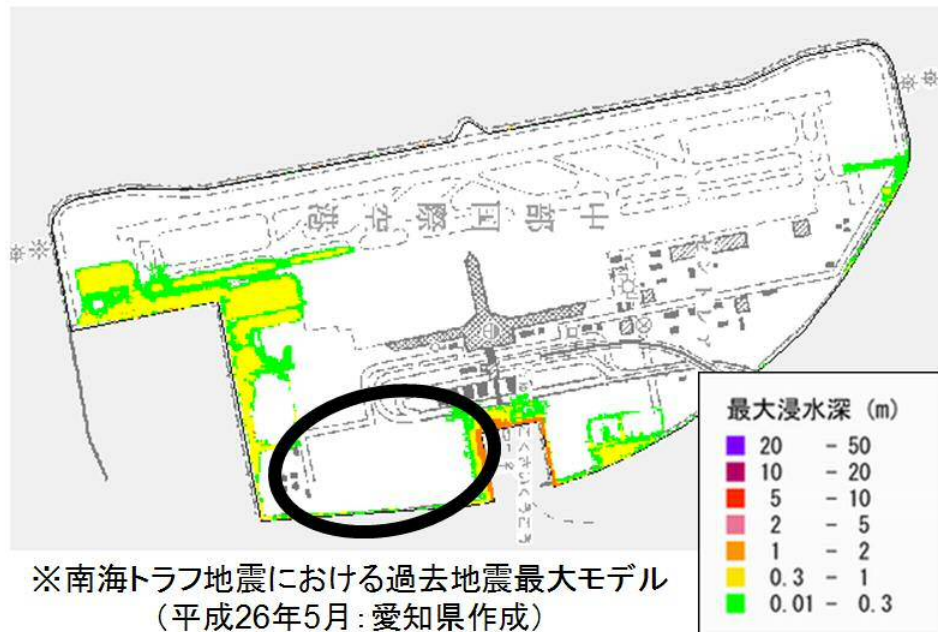


アリス ダイニング
(中部国際空港株式会社提供)

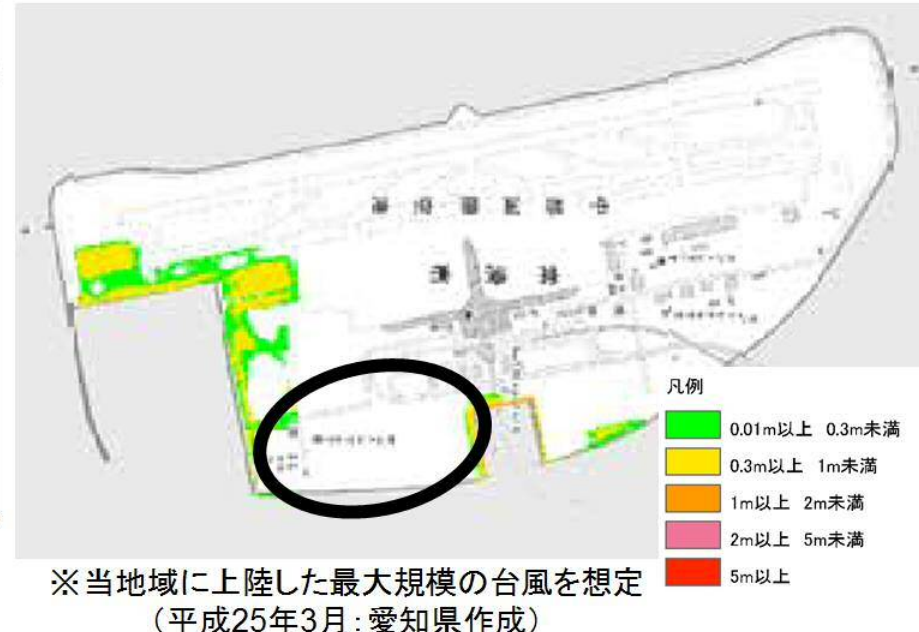
空港島の防災対策について

- 空港島へのアクセス手法は鉄道と道路の二系統、橋は震度7の地震時においても機能の回復が速やかに行い得る構造
- 道路が強風により通行止めになったのは開港した平成17年以降で4回のみ
- また、「第一次緊急輸送道路」として、巨大地震発生の際には緊急物資の供給を担う道路として早期の復旧
- 展示場は津波・高潮ともに浸水の可能性は極めて低い

<津波ハザードマップ:南海トラフ地震被害想定>



<風水害ハザードマップ>



展示場の運営

運営の基本的な考え方1

- 「公設民営方式」により国内外の専門的な民間事業者と連携した展示場運営
- 展示会やイベントを積極的に呼び込み、周辺施設との相乗効果によるにぎわいを創出
- 県や地元自治体、経済界など当地域の官民一丸となって展示会等を開催支援

<目指すべき指標>

年間来場者数(想定)	約251万4千人
経済波及効果(全国)	1,500億円以上/年間

<参考:展示会の開催支援に向けて活用が検討できる枠組み>

○愛知・名古屋MICE推進協議会

設立目的	行政・企業・団体が地域一丸となってMICE誘致・開催支援に取り組むことを目的に平成27年4月に設立
構成団体	愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所、(一社)中部経済連合会、中部国際空港(株)、(一社)日本ホテル協会中部支部、(一社)日本コンベンション協会、愛知学長懇話会(一社)愛知県観光協会、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、(公財)名古屋産業振興公社国土交通省中部運輸局
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模MICEへの開催支援(レセプションでの当地域独自のアトラクションや伝統芸などを提供) ・誘致プロモーション(国内外のMICE見本市への出展) ・地域を挙げて誘致する必要のある大規模なMICE案件の誘致計画等の情報共有

運営の基本的な考え方2

- ✓ 徹底的に整備コストを削減し、ローコストオペレーションを実現
東京・大阪と比べて低料金を実現

	東京ビッグサイト	幕張メッセ	パシフィコ横浜	インテックス大阪
料金	東1ホール(8,670㎡)	第1ホール(6,750㎡)	展示ホールB(6,700㎡)	2号館(6,729㎡)
	355.3万円	225.7万円	237.6万円	177.1万円
10,000㎡換算	409.8万円	334.4万円	354.6万円	263.2万円

- ✓ 国際空港隣接型の特色を活かし、アジアを中心に海外から出展者・来場者を呼び込む仕掛けの検討

ファーストレーン(セントレアへの導入が検討されている)、総合保税地域(空港島全体が該当) など

<ファーストレーンについて>

- ・ 訪日外国人のうち、国際会議の参加者や重要ビジネス旅客を対象に、空港において迅速な入国手続きが行えるよう、入国審査場に設ける専用レーン

<総合保税地域について>

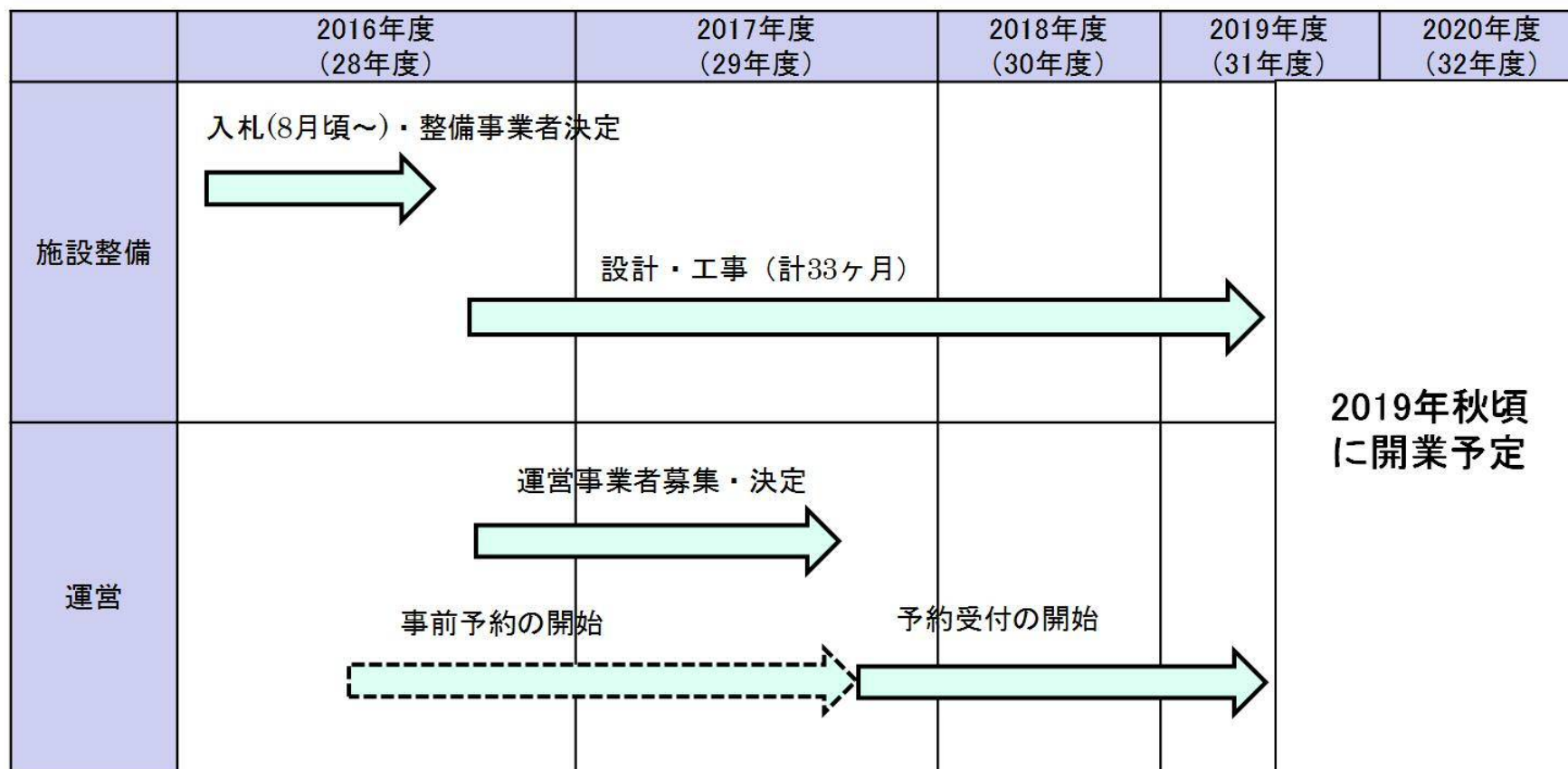
- ・ 外国貨物の蔵置、加工、製造、展示などの機能を総合的に活用できる地域として税関長が許可した場所
- ・ 総合保税地域のメリットを活かせるよう、今後調整

早期に予約を開始

✓ 2016年秋頃 事前予約の開始

2017年度中 運営事業者の募集

2019年秋頃～ 開業





ご清聴ありがとうございました

2019年秋に誕生する愛知の大規模展示場を
是非ご利用ください。

＜参考＞大規模展示場に関する問い合わせ先

愛知県振興部地域政策課 大規模展示場準備室

電話 052-954-6849

Eメール tenji@pref.aichi.lg.jp